

資料

茨城県南西部加波山におけるタカチホヘビ（タカチホヘビ科）の
初確認報告と県内における同種の分布に関する追加記録

大田和朋紀*・吉川夏彦**・早瀬長利***・****・猿田朝久*

(2021年8月26日受理)

**Records of Japanese Odd-scaled Snake *Achalinus spinalis* Peters
(Xenodermidae) in Ibaraki Prefecture,
with Special Reference to the First Record from Mt. Kaba**

Tomoki OOTAWA*, Natsuhiko YOSHIKAWA**, Nagatoshi HAYASE***, **** and Tomohisa SARUTA*

(Accepted August 26, 2021)

Abstract

We report the first record of the Japanese odd-scaled snake *Achalinus spinalis* from Mt. Kaba, Tsukuba mountains, southwestern Ibaraki Prefecture based on observation and photographs. Two additional records of the species, an observation in Mt. Tsukuba and a collection record from Mt. Yamizo, northwestern Ibaraki Prefecture, are also reported.

Key words: *Achalinus spinalis*, Mt. Tukuba, Mt. Kaba, Mt. Yamizo, Ibaraki Prefecture.

はじめに

タカチホヘビ *Achalinus spinalis* (有鱗目 Squamata, タカチホヘビ科 Xenodermidae) は国内においては本州・四国・九州に広く分布する夜行性のヘビ類の一種である。山地の森林に生息し、地中性で主にミミズ類を餌とし、日中地上に出現することは少ない(大野, 1978)。茨城県では久慈郡大子町や常陸大宮市など、県北部の山地での報告が数例あるのみで(湯本・茅根, 2003; 稲葉, 2007; 茨城動物研究会, 2007)、茨城県版レッドデータブックでは準絶滅危惧種に指定されている(茨城県生活環境部環境政策課, 2016)。今回、本種について県南西部の加波山での生息が初めて確認さ

れたので、県北部の八溝山での新たな確認記録と合わせて報告する。

生息確認および目撃地の状況

1. 加波山での確認例

2020年8月13日、大田和朋紀と猿田朝久がタカチホヘビの幼体を加波山(茨城県桜川市真壁町付近)の沢沿いにて発見した(図1, 2)。採集地点の標高は555 mで、周辺はスギ植林地であり、沢沿いにのみコナラ、ササなどがみられた。沢幅は約1 m、深さ約2 cm。茨城県自然環境課の生物調査業務中に倒木の下にて発見した。

*一般財団法人自然環境研究センター 〒130-8606 東京都墨田区江東橋3-3-7 (Japan Wildlife Research Center, 3-3-7 Kotobashi, Sumida-ku, Tokyo, 130-8606, Japan).

**国立科学博物館動物研究部 〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1 (Department of Zoology, National Museum of Nature and Science, 4-1-1 Amakubo, Tsukuba, Ibaraki, 305-0005, Japan).

***茨城県環境アドバイザー 〒308-0007 筑西市折本328-1 (Environmental adviser of Ibaraki Prefecture, 328-1 Orimoto, Chikusei, Ibaraki 308-0007, Japan).

****ミュージアムパーク茨城県自然博物館総合調査調査員 〒306-0622 茨城県坂東市大崎700 (Ibaraki Nature Museum, 700 Osaki, Bando, Ibaraki 306-0622, Japan).



図1. 加波山にて確認されたタカチホヘビ（左）および頭部拡大図（右）。

Fig.1. A juvenile of *Achalinus spinalis* found in Mt. Kaba (left), and enlarged head part (right).



図2. 加波山でのタカチホヘビの確認環境。

Fig.2. Habitat of *Achalinus spinalis* in Mt. Kaba.



図3. 八溝山で採集されたタカチホヘビ（♀）の死体。

Fig.3. Dead body of a female of *Achalinus spinalis* collected in Mt. Yamizo.

今回確認されたタカチホヘビは目測にて全長約 20 cm、中央部の胴幅約 0.5 cm 程度の幼体であった。個体は捕獲せずに写真および GPS 情報のみを記録した。生息地保全のため、GPS 情報は非公開とする。

2. 八溝山での確認例

2015 年 8 月 23 日、吉川夏彦が八溝山周辺（茨城県大子町上野宮）の溪流沿いを走る道路わきのスギ植林地の林床にて死亡したメスの成体 1 個体（未計測）を発見した。まだ新鮮で腐敗はしていなかったが、前部胴体腹面の大部分が何者かに食べられて骨が露出していた（図 3）。個体は 10%ホルマリン固定後、70%エタノール液浸標本として国立科学博物館爬虫両生類コレクション（NSMT-H 9080）に収蔵されている。

3. 筑波山での目撃情報

2013 年 7 月 17 日、早瀬長利が筑波山（茨城県つくば市筑波）の山頂付近の御幸ヶ原に位置するカタクリの里で、草むらを移動するヘビを目撃した。当日の天候は霧がかかり薄暗く時々雨も落ちていた。移動が速く捕獲や撮影は出来なかったが、体色などからタカチホヘビの可能性もあると考えられた。筑波山でのタカチホヘビの生息確認のためにはさらに追加の調査が必要と思われる。

これまでの茨城県での記録

茨城県の地域区分を「茨城県版レッドデータブック」（茨城県生活環境部環境政策課、2016）を参考にして図 4 に示した。

茨城県でのタカチホヘビの記録は湯本・茅根（2003）がまとめた時点では 8 例のみであったが、その後、散発的に報告されている。鈴木（2004）は常陸大宮市（旧那珂郡山方町）で幼蛇の死亡個体 1 個体を、稲葉（2006）

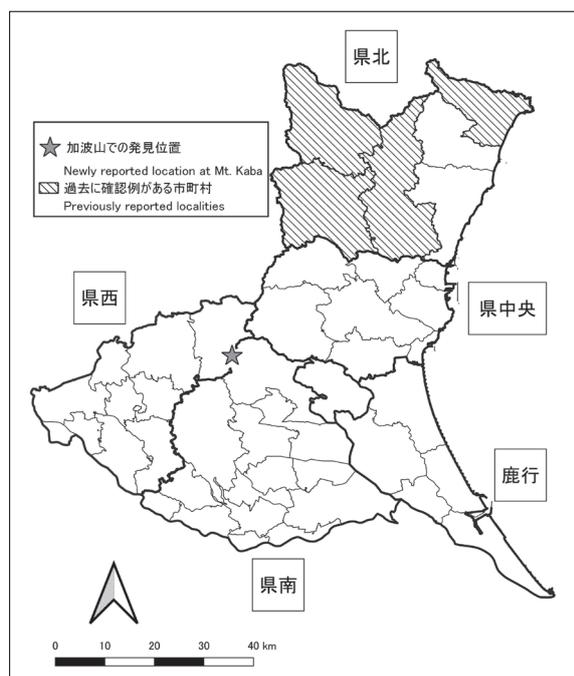


図4. 茨城県におけるタカチホヘビの過去における市町村別確認地域と本研究における発見地点。

Fig.4. Distribution areas of *Ashalinus spinalis*, recorded previously and in the present study in Ibaraki Prefecture.

は常陸太田市（旧里美村）で轢死体1個体をそれぞれ報告している。これら10例の生息記録はいずれも県北部での報告で、県南部からは記録がなかった（図4）。茨城県自然博物館が実施した県南西部における両生爬虫類の一斉調査でも、本種の生息は確認されていない（早瀬，2010）。県南部は県北部に比べて平地が多く、山地や丘陵地の森林環境は筑波山塊の周辺から北にしか存在しない。そのため本種の生息に適した環境が県南部では少なく、分布域自体に限られる可能性がある。本種が夜行性かつ地中性で人目に付きにくい（大野，1978，1987）ことも重なり、これまで県南部で発見されなかったのだろう。

今回、県南西部の筑波山塊に位置する加波山でタカチホヘビの生息が確認され、タカチホヘビが茨城県南部の山地にも生息していることが明らかとなった。今後、さらなる調査や情報収集によって茨城県内の本種の生息状況が解明されることを期待する。

謝 辞

文献収集にてご協力いただいた久保田正秀氏、本文執筆についてご指導いただいた戸田光彦氏にお礼を申し上げます。

引用文献

- 早瀬長利. 2010. 茨城県西部地域の両生・爬虫類. 茨城県自然博物館総合調査報告書：茨城県南西部地域を中心とした脊椎動物（2006-2008），pp. 17-21，ミュージアムパーク茨城県自然博物館。
- 茨城動物研究会. 2007. 久慈川流域の爬虫・両生類. 茨城県自然博物館第4次総合調査報告書：八溝山地・久慈川を中心とする県北西地域の自然（2003-2005），pp. 269-278，ミュージアムパーク茨城県自然博物館。
- 茨城県生活環境部環境政策課. 2016. 茨城における絶滅のおそれのある野生生物 動物編 2016年改訂版（茨城県版レッドデータブック）. p. 6, 85, 茨城県生活環境部環境政策課。
- 稲葉 修. 2006. 常陸太田市（旧里美村）でタカチホヘビを確認. 茨城生物, (26): 21-22.
- 稲葉 修. 2007. 茨城県内における爬虫類（陸産）の記録-県北部を中心として-. 茨城生物, (27): 43-57.
- 大野正男. 1978. 日本産主要動物の種別文献目録（4）タカチホヘビとアマミタカチホヘビ. 東洋大学紀要, 教養課程編（自然科学）, (21): 93-104.
- 大野正男. 1987. 総説-タカチホヘビ. 日本の生物, 1 (10): 48-55.
- 鈴木律子. 2004. 那珂郡山方町でタカチホヘビ（幼蛇）を発見. 茨城生物, (24): 37.
- 湯本勝洋・茅根重夫. 2003. 茨城県におけるタカチホヘビの記録. 茨城県自然博物館研究報告, (6): 63-65.

(要 旨)

大田和朋紀・吉川夏彦・早瀬長利・猿田朝久. 茨城県南西部加波山におけるタカチホヘビ（タカチホヘビ科）の初確認報告と県内における同種の分布に関する追加記録. 茨城県自然博物館研究報告 第24号（2021）pp. 73-76.

2020年8月に茨城県内南西部に位置する加波山において、県南西部で初めてタカチホヘビが確認された。八溝山での追加記録および筑波山での目撃情報と合わせて報告する。

(キーワード): タカチホヘビ, 筑波山, 加波山, 八溝山, 茨城県.